

# 校長室だより

## 5年生の野外体験教室速報その2

国立市立国立第七小学校長 森田弘文

平成26年9月1日 NO.17

28日も朝から霧雨が降っていましたが、滝沢牧場へ酪農体験に行きました。牧場の職員でありインストラクターの泉田さんの丁寧でユーモアたっぷりの事前説明の後に、いざ！乳しぼり・餌やり・ポニーの世話・バター作りへ出発。マロンちゃんの乳しぼりの前に、生まれたばかりの子牛（名前はまだついていないそうでした）に近寄り接する子ども達の横顔に、生き物に対しての温かな眼差しを感じました。子牛を国立七小に連れて帰りたいという要望もたくさんあったのですが、校長先生も苦汁の決断で断念。次にいよいよ乳しぼり体験。一人一人緊張しながらも乳の出る様子にびっくり感動。餌やりでは、牛タンにペロリとなめられ驚き、キャーキャーワーワー！と大喜びする子ども達。「かえで・マル子・ティナ」の三頭のポニーの世話では、馬という生き物についてとても詳しく説明してくださり、いろいろとたくさんのお話を学ぶことができました。バター作りでは、皆で滝沢牧場のしぼりたてのボトル入り牛乳を、シャカシャカと根性入れて振り続けました。その結果どの班でもたくさんバターができ、美味しく召し上がることができ、皆の満足な顔・顔・顔。泉田さんより、人間は、命あるものを頂き、自らの生命を保つことができるというお話も聞くことができ、様々な生き物に感謝する必要があるという大切なことも学ばせてもらいました。昼食後には、牧歌的な広場にてとび跳ねたり、アスレチックで遊んだりすることができました。JA農協の八ヶ岳牧場に行く予定がある事情により変更しましたが、八ヶ岳や遠く秩父連山の山々を眺め、教育的なインストラクターの方々の指導により、子ども達はたくさんのお話を体験を通して学ぶことができたことは、意義深いものであると感じました。その後、宿舎に戻り、はんごうでご飯作り・カレーづくりに挑戦。みんなで力を合わせて作ったカレーライス、どの班も同じ食材を使いながらも微妙な味の違いはあるものの、どれも美味しくカレーもご飯も完食。宿舎の方も、「これほど残菜が少ないのは初めて！」と感心しておりました。たくさんのお褒めのお言葉を頂き、子ども達もにっこりにんまり。将来、この子ども達の中から世界的な有名なシェフが出るのではないかと期待もふくらみました。二日目の夜も熱を出す子もなく、前日と同様に、みんな良い子で静かに就寝・・・。

29日は楽しみにしていた魚釣り体験。川俣川に糸を垂らした瞬間から、釣れるわ釣れる！一人で5・6匹を釣った釣り天狗も出現。皆で仲良く助け合いながら、釣りに夢中になり時間もあっという間に過ぎていきました。釣った後は、ぬるぬるする魚をさばき、はらわたを取り、塩を振り、焼きに入りました。たくさん釣れすぎて食べ残すのではないかと心配していましたが、杞憂に終わりました。1匹の魚も残すこともなく、ここでも完食。とっってもよく食べる5年生にまたまた感心・感心。最後に、漁協組合の方から、生き物の命を頂くことの意味や、命を大切にすること。さらに皆で力を合わせる事の素晴らしさもお話してもらいました。「楽しく仲良く元気よく！」無事故で笑顔で帰ってきた5年生。きまりも良く守り、あちこちで褒められ、皆で助け合い大変よくがんばりました。この貴重な体験を、これからの2学期の学校生活でさらに生かしてほしいと心より願っています。

